

わが国最大のスポーツの祭典、国民体育大会

平成十一年、「熊本国体」正式に内定

# くまもとに 国体がやってくる

国民体育大会は各都道府県を代表する選手が一堂に集う、わが国最大のスポーツの祭典。七月五日、「平成十一（一九九九年）第五十四回国民体育大会夏季・秋季大会（九・十月）」を熊本県で開催することが、正式に内定しました。熊本では昭和三十五年の第十五回大会以来、三十九年ぶりの開催となります。

## 本格的に動き出す 熊本国体プロジェクト

昭和二十一年に始まった国体は、毎年、各都道府県持ち回りで開催されており、熊本では、昭和三十五年に第十五回大会が行われました。そして、二巡目、熊本への国体招致の声が上がったのは昭和五十七年のことでした。昭和六十三年には県議会が国体招致を決議（財）日本体育協会で開催順序の決定つまり「内定」がなされました。県は平成二年に県内の各階層からなる第五十四回国民体育大会熊本県準備委員会を発足させるとともに、庁内には国体準備推進室を設置、国体準備局、国体推進局と発展的に名称を変えながら、用地買収や施設整備など準備を進めて

きました。

国体は県勢発展の面からも、一大プロジェクトになります。

## 「熊本国体」へ盛り上がる気運

内定に先立ち、今年三月には熊本国体の愛称と標語が公募により決定しました。愛称「くまもと未来国体」、標語「人、光る。」です。  
五月二十三日には、国体関係三機関（県体育協会、県国体推進局、県競技方向上対策室）が、そろって県庁東側事務棟に入居。「国体ビル」を開所しました。各機関の連絡調整や準備作業などもよりスムーズに行われ、国体開催にむけての活動が本格的に動きだしました。  
また、九月二十四日には、開催内定



高原日本体育協会長から開催内定の通知書を受ける福島知事。7月5日、日本体育協会（東京）にて（写真：熊本日日新聞社提供）

を記念して「くまもとスポーツフェスティバル」が、県立劇場で開かれました。

第一部は、一万四千点を超える応募の中から最優秀賞に決定した、熊本国体の愛称と標語の表彰式。第二部は、創作ダンスやトークショーなどのアトラクション。元オリンピック銀メダリストの池谷幸雄氏や元全日本バレーボール選手の益子直美氏らをゲストに、国体開催へのムードを盛り上げました。

**三十五の競技施設を新設**  
国体開催にともない、その受け皿となる競技施設や道路など社会基盤の整備も求められます。夏季・秋季合わせて三十八競技の会場地はすでに決まっており（図参照）、四十二市町村で、施設の整備が進められています。



■熊本県民総合運動公園 陸上競技場（仮称）  
1周400mトラック、9コース全天候舗装、観客収容人員3万人。完成予定は平成9年度

## 愛称 くまもと未来国体

スポーツを通じ、すべての人が感動と喜びを分かち合い、健康で心豊かな「未来」をめざします

## 標語 人、光る。

人がつくる、感動の波に触れてください。人がつくる、輝く瞬間を感じてください。あらゆる人が集い、創りあげるこの国体は「人」の祭典です。21世紀にむけて、火の国熊本から、人の心のエネルギーを発信します

秋季のメイン会場となる陸上競技場は、県民総合運動公園（熊本市平山町）の東側に建設の予定で、観客収容数は三万人、水前寺競技場の約二倍にあたる規模です。同会場横にはドーム式の屋内運動広場も建設されます。また、夏季大会のメイン会場となる熊本市総合屋内プール（仮称（熊本市荒尾町））は、完成すれば、県内初の国内大会や国際競技が開催可能な競泳施設となります。  
その他、菊池市竜門ダム湖に西日本最大級の漕艇コース、宇土市にヨットマリナー、上益城郡益城町にライフル・クレー射撃場など、七十六施設のうち三十五の施設が新設されます。

## 道路網の整備も大きく前進

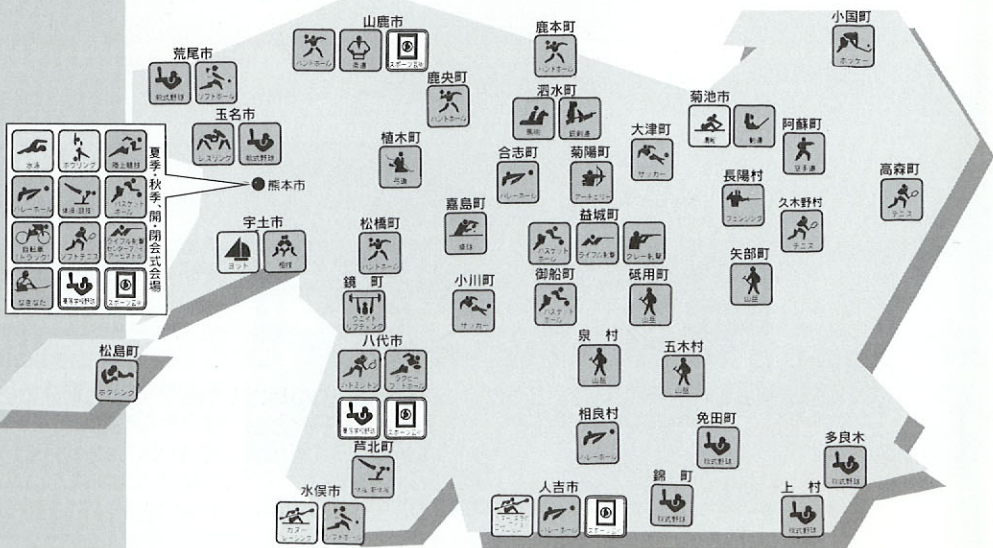
道路の整備については、秋季メイン会場へのアクセス道路として、二本の

道路の建設がすでに進行しています。一本は、熊本市保田窪町から菊池郡菊陽町に至る十・五キロの通称東西線。もう一本は、上益城郡益城町の第二空港線から菊陽町三里木の菊陽バイパスにつながる六・七キロの通称南北線です。これらは、東バイパスや国道57号につながり、熊本空港や阿蘇へのアクセスもさらに便利になります。県内では、この二本の道路を含めて、全長一八・四キロを整備する予定です。  
競技施設や道路網の整備は、国体開催を機に大きく前進しますが、国体終了後も、県民の「生涯スポーツ」の拠点として、あるいは観光・商業面でも経済効果をもたらす、県民生活に大きく貢献します。

## 国体の会場

あなたの町に、国体の感動がやってくる。

競技会場予定地配置図  夏季大会  秋季大会  公開競技



## 男子ハンドボール世界選手権大会（一九九七年） 熊本開催決定

一九九七年（平成九年）の第十五回男子ハンドボール世界選手権大会の熊本開催が、九月九日、オランダ・ノードベイク市で開かれた国際ハンドボール連盟（IHF）総会で決定しました。世界選手権大会は二年に一度開催されるハンドボール界最大のイベントです。  
この総会に、昨年の日本ハンドボール協会の評議員会で開催候補地に決定している熊本から、松村副知事、田尻熊本市長、熊本招致委員会八木会長をはじめとする招致団を派遣。直前のP

R活動と総会でのプレゼンテーションを行いました。

総会では、エジプトとの間で投票となり、参加国五十九カ国のうちの四十四カ国から支持を得た、日本・熊本に決まりました。

ヨーロッパ以外では初の開催となるこの大会は、一九九九年熊本国体の秋季メイン会場となる県民総合運動公園内に新設される屋内運動広場を中心に、五月中旬に開催されます。大会には二十四カ国の参加が予定されています。



■熊本県民総合運動公園 屋内運動広場（仮称）  
1周250mトラック、高さ49mのドーム式で、サッカー、ソフトボールやテニスなどができる多目的グラウンド。固定席は約2千人。男子ハンドボール世界選手権大会の会場にも予定されています。完成予定は平成8年度